

区立学校のプール施設整備と水泳授業等の あり方について

(概要版)

1

1 はじめに（抜粋）

全区立小学校に設置されている屋外プール施設は、整備や維持管理に多くの経費を要し、その利用は1年を通して夏季のみに限られている。また、昨今の猛暑や豪雨（雷）等の気候変動に伴い、水泳授業が中止になる回数が増加するなど水泳授業の計画的な実施が難しくなっている。

他自治体ではインストラクターによる水泳指導や複数校によるプールの共同利用に切り替えるなど、これまでの水泳授業とプール施設のあり方を抜本的に変える岐路にもある。こうした中で、区では中長期的な視点を持って水泳授業の継続、プール稼働率の向上、維持管理コスト等複数の視点を踏まえ「区立学校のプール施設整備と水泳授業等のあり方について」をとりまとめた。

2

2 水泳授業の現状と課題

●水泳授業の目的と学習指導要領の位置づけ

水泳は学習指導要領において小・中学校を通じて取扱う内容として位置づいている。バランスの取れた全身運動であり、この時期に基本的な水泳技能を習得することは、児童・生徒の身体的な発達を促す教育的な効果が期待されるとともに、水難事故防止の観点からも効果的だといえる。

●現状と課題

【天候による影響】

○天候等（猛暑、低温、雨天）による中止学校数
※令和5年度中、1度でも天候等を理由にプール授業を中止した学校数

天候等による中止学校数（％）

中止した学校, 74.6 ％

中止していない学校, 25.4 ％

【多数の学校が天候等の影響を受けている】

【学校での水泳指導】

○教員が指導するうえで、感じている課題について
（世田谷区立小・中学校）

- ①水泳授業を指導するには高い専門性が必要である。
- ②生命に直結することから、指導しながら、安全管理をすることに不安がある。
- ③配慮が必要な児童・生徒に注視することが難しい
- ④その他

指導するうえで感じている課題について（％）

①, 24.3

②, 37.6

③, 30.6

④, 7.5

【水泳指導に関しての専門性や、安全管理に課題を感じている学校が多数ある】

3

3 プール施設の現状と課題等

●小学校プール施設の現状

設置場所	屋上	校庭		
		平置き	埋込式蓋掛	体育館下
学校数（校）	32（改築中2校含）	26	2	1

築30年前後よりプールは屋上に設置している

築年数	50年以上	40年以上	30年以上	20年以上	10年以上	10年未満
学校数（校）	20	4	14	4	10	9
割合（％）	32.8	6.6	23.0	6.6	16.4	14.8

●プール施設の課題

- ・保護者からは、気候や天候、プライバシーの配慮などに左右されない環境や専任講師を配置した民間温水プール施設の使用を求める要望がある。
- ・学校からは、施設の老朽化やプール管理による負担の低減を求めている声が多く、屋内プールを希望する学校も多い。
- ・プール設備は常時水をためておく必要があることや年間の利用期間が限定的であることから、不具合の発見に伴って各種部分的、応急的な修理・補修を行っている状況にあるため、プール施設全体の機能改善に至らない場合が多い。

●区政モニターアンケートの実施

- ・「施設稼働率を上げて効率化を図るのであれば、屋内温水プール化にメリットを感じる」との回答が7割近くを占め最も多い。
- ・「共同利用はせず今までどおり小学校ごとに屋外プールを設置する必要がある」と感じるが1割に満たない結果となった。

4

4 モデル事業の実施内容と結果

●モデル事業の実施概要

【中学校屋内温水プール施設を複数の学校が共同利用した水泳授業】

- ・対 象 校：玉川小学校
玉川中学校
- ・活用施設：玉川中学校屋内温水プール施設
- ・実施時期：令和4年6月～9月
- ・水泳授業：学年を2分割、30回（＊2コマを1回）
- ・水泳指導：民間事業者へ委託（指導員約10名）
- ・移動手段：徒歩11分程度（補助員1名）
- ・経 費：約500万円（水泳指導委託料）

【民間プール施設を活用した水泳授業】

- ・対 象 校：瀬田小学校
- ・活用施設：コナミスポーツニ子玉川店
- ・利用方法：休館日（週1日）の貸し切り利用
- ・実施時期：令和4年6月～11月
- ・水泳授業：学年を2分割、19回（＊2コマを1回）
- ・水泳指導：教員
- ・移動手段：徒歩15分程度
- ・経 費：約400万円（施設使用料）

5

●玉川小学校および瀬田小学校の児童、教員、保護者へ行ったアンケート結果（抜粋）

- ◆屋内プール施設の使用については児童・保護者・教員とも満足度が高い。
- ◆水泳授業については保護者からは、回数をもっと増やしてほしいという声が多い反面、教員からは指導期間や回数、時間割の調整等カリキュラムへの課題があるとの指摘が多い。
- ◆移動については児童からは、移動による負担を感じていないとの声が多いが、教員からは、移動中における安全面の課題があるとの声が多い。
- ◆水泳指導の民間事業者への委託について（玉川小学校のみ）は児童・保護者・教員ともに委託による指導について満足度が高いが、教員からは、指導内容など民間事業者との打合せに課題があるとの声がある。

6

●モデル事業での総評

- ◆既存屋内温水プールの積極的な活用を前提に検討を進め、自校以外のプールを利用する場合は移動時間が生じ、効率的な水泳授業が求められることから、水泳指導の委託化を基本とする。
- ◆民間事業者による水泳指導は、教員の負担軽減や児童の泳力向上に効果が期待できることが確認できた。
- ◆移動に関しては、児童・保護者からは10～15分程度の移動時間に関して、概ね受け入れられるとの回答が多かった一方で、教員からは移動中の安全面に関する課題が指摘された。これよりプールの共同利用にあたっては、移動中の安全対策の強化策や、1km程度を児童の可能徒歩圏域と想定する。
- ◆移動時のバス利用はバス待機場所への移動や乗車に時間を要することから、原則、徒歩による移動とする。

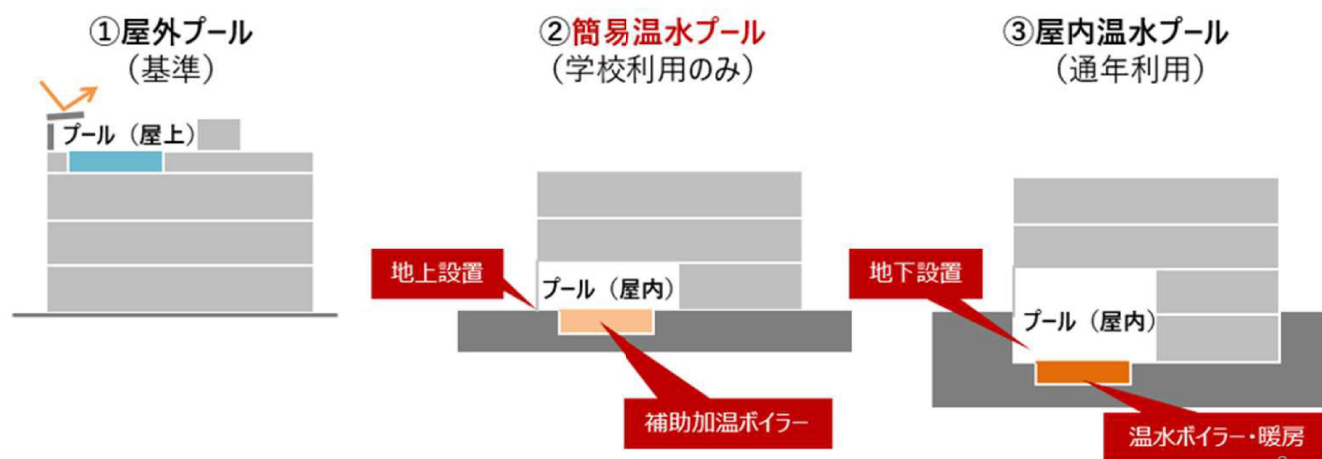
7

5 学校プール施設整備の考え方

●学校プール施設整備の検討

- ◆屋外プールと屋内温水プールの概算経費は1／12程度と大きな開きがあり、費用対効果を考えると複数校に屋内温水プールを設置することは財政的に困難
- ◆プール稼働期間を延ばし、低コストで複数校利用できるプールの実現を目指し、プールを室内に配置し、プール水を補助的に加温して夏季以外にも利用期間が拡大できるよう「簡易温水プール」を加えて検討を実施した。

◆プールの比較（イメージ）



8